



南田原条里遺跡 第50次



東上空から



南上空から



福岡市全図



SB07 (西から)



SB08・09 (北から)



50次の調査では、掘立柱建物10棟、柵5列、溝27本、落ち込み8基、土坑7基、ピットが確認されました。掘立柱建物ではSB10だけが主軸方向が45°振っており、旧河道の上に構築されていることから、後世の遺構と思われます。溝SD16も現在の水田畦畔に平行して掘られており、新しい遺構と思われます。溝の中で北西から南東に向かって蛇行しているSD18・19・22は自然流路の可能性が高いと思われます。埋没時期は中世まで下りそうです。SD02は近代の暗渠かと思われます。それ以外の遺構は奈良時代に限定されます。



SD17 土器出土状態

SB01	南北棟	2間(3.2m)	3間(6.4m)	N12° E
SB02	南北棟	2間(3.8m)	3間(6.3m)	N0° E
SB03	東西棟	2間(4.8m)	4間(8.8m)	N12° E
SB04	東西棟	3間(6m)	5間(11m)	N12° E
SB05	南北棟	2間(4.6m)	4間(6.4m)	N12° E
SB06	南北棟	1間(2.4m)	3間(5.2m)	N12° E
SB07	東西棟	2間(3.6m)	3間(6.4m)	N12° E
SB08	東西棟	2間(3.6m)	3間(6m)	N10° E
SB09	南北棟	1間(2.6m)	3間(5.6m)	N10° E

奈良時代掘立柱建物一覧



SB06 (南から)

南田原条里遺跡は福崎町役場南側一帯の吉田区・八反田区・中島区に広がる遺跡です。条里制の地割が認められることから南田原条里遺跡としましたが、条里の遺構は見つかっていません。57回の調査が行われた結果、弥生時代から近世に至る複合遺跡であることが判明しています。遺物は旧石器時代のナイフ形石器も出土しています。



調査区垂直写真



北上空から



SD17 西壁

今回調査した遺構は掘立柱建物を中心です。その特徴はSB02で代表されるように短辺(桁行)中央の柱穴が小さいことです。長辺(梁行)の柱穴は柱の下や周辺に石を多く使っていました。柱を抜き取る際に土器を入れてお祀りもしていたようです。出土須恵器壺がSB02とSB05と接合したことは同じ祭祀を同時期にしていたものと思われます。



SB05 (南から)



SX02 (南から)



SB03・04 (南から)



SB02 (北から)



SB02 柱穴断ち割り



SD02 断面



SD03 北壁



SX02 (南から)

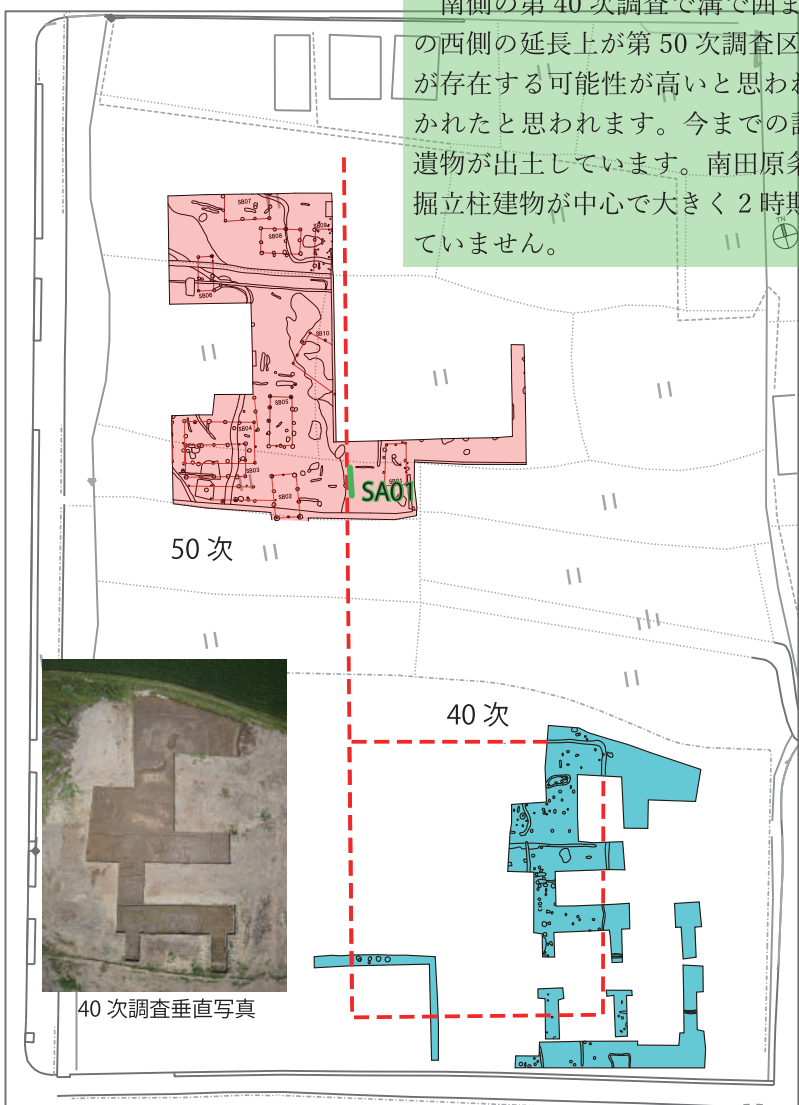


SD07 (南から)



SX04 土器出土状態

南側の第40次調査で溝で囲まれた荘所のような1辺55m前後の単位が想定されました。その西側の延長上が第50次調査区のSA01部分にあたります。SA01から西側に1辺50mの区画が存在する可能性が高いと思われます。条里制の半分の長さになり、企画性が高く計画的に築かれたと思われます。今までの調査で稜椀や墨書土器・製塩土器など古代役所の可能性を示す遺物が出土しています。南田原条里遺跡の中での1つの中心施設(荘所)の可能性がります。掘立柱建物が中心で大きく2時期に分けられます。第40次で調査された工房跡などは確認されていません。



ふくさき再発見シリーズ③

南田原条里遺跡

編集発行：福崎町教育委員会

〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原 3116-1

TEL：0790-22-0560

E-Mail：syakai@town.fukusaki.lg.jp

南田原条里遺跡第40次・第50次調査平面図